

「分かる」のに「できない」

年度末を迎え、学級によっては教科書の学習内容を終え、卒業後・進級後のことを見据えて、児童生徒の実態をもとに、右のような「学習のまとめ」に取り組まれている時期かと思えます。

- キビタンシートに取り組む
- 教科書を読み返す
- 教科書の巻末問題に取り組む
- ワークやドリルにもう1回チャレンジする
- まとめ用のプリントに取り組む

毎年実施されている全国学力・学習状況調査の児童生徒質問紙調査設問「授業の内容はよくわかりますか」に対して、南会津域内では、「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」と回答している児童生徒の割合が全国平均に比べて高い傾向が見られます。一方で、域内全体としての正答率は、小学校・中学校ともに全国平均を下回る状況が続いています。

この状況から、「扱っている問題の質にちがいがあのではないか」ということが推察されます。普段の授業で出題している問題の質と、全国学力・学習状況調査で出題されている問題の質にちがいがあるために、子供たちは「授業では分かる」のに、「正答率が低い(学調の問題は思うように解けない)」のではないかということなのです。

県教育委員会では、主に児童生徒の活用力の向上を目指して、充実した授業実践を重ねてこられた県内各地の先生方のお力をお借りしながら、小学4年生から中学2年生までを対象に「活用力育成シート」を作成してきました。このシートには、下記のようにたくさんの資料(非連続型テキスト等)の中から必要な情報を選んで、自分の経験等を踏まえて考えを記述するなど、今、求められている資質・能力を育成する形式の問題が多く出題されています。

【資料1】どんぐりについてのインターネットサイト

【資料2】調べたことを整理したカード

【資料3】どんぐりについてのまとめ表

【資料4】安田さんの説明文

自分の感想

活用シート

組 番 氏名

登校日にすると、23日後に全国学力・学習状況調査が実施されます。1年間の「学習のまとめ」のひとつに「活用シート」を加えることで問題への対応力が向上し、「分かってできる」子が増えていくかもしれません。

